

2019 年度 特定非営利活動に係る事業計画書

事業実施の方針

◆里山保全部門

* 管理場所グループ

根戸城址を中心とする里山、田畑、水辺とその環境は今まさに貴重な存在になっている。この環境を活用、保全し後世につなげていくことを目的とする。

根戸城址	周辺道路の清掃、場内整備。巡視。落葉の堆肥化。倒木、枯れ枝、間伐材の活用及び処理。下草刈り。森の劇場整備。隣接地への協力。立ち入りの管理
ミカン山	除草。施肥。防虫。剪定。収穫。植樹。立ち入りの管理
ハス田	畦及び水中の除草。間引き。施肥。切り花募金。枯れ茎の除去
田んぼ	水管理。機器の点検。雑草の除去。耕うん。等年間を通しての水田管理
その他	他部門との連携

個別活動グループ

・里山農教室部会

有機生態系農業を学び研究し実践する場として今年度も開講する。

受講生のなかから、有機生態系農業の母胎たる里山環境の保全活動の担い手を育成することを目指す。

3年次生以上のスタッフは受講料を2000円に減額し、担当作物を持ち、農教室の運営を担うという性格をはっきりさせる。

子ども部会が加わったので、安全に配慮しながら、子どもたちが楽しく作業できるよう援助する。

・特別コース部会

年間10回の会合を開き、遠藤理事長の指導のもと、有機生態系農業を実践し学習する。

各自約10㎡の圃場の栽培計画と課題を設定し、年末に結果報告し、評価、考察する。

6月には農教室と合同でバス見学研修会を開催の予定である。

今年は、茨城県阿見町にある「茨城大学農学部付属のフィールドサイエンスセンター」を訪問の予定である。

各自、課題作物の「さといも」の栽培を行い、11月のそば祭りの時に品評会を実施の予定である。

・ハーブ部会

昨年度とほぼ同様の作業を行う予定である。

・養蜂部会

根戸城址で多くの巣箱を維持・管理し、会員に蜂蜜・蜜蝋クリームを潤沢に供給するとともに、部会員が日本ミツバチ飼育の基礎技術を習得することを目指す。

・竹教室部会

竹教室部会の第三期生は2年目となり、最後の課題3作品目の作成に取り組む。

◆遊休農地活用部門

* 遊休農地対応グループ

- ・船戸圃場、三角田圃、宮前沼圃場では景観作物を栽培して、農地を保全すると共に手賀沼周辺の景観と環境を守る活動を行う。
- ・船戸圃場、宮前沼圃場ではひまわりと菜の花を栽培する。三角田んぼは12月頃から3月頃まで客土計画があり、ひまわり栽培のみとなり、菜の花栽培は行わない。また三角田んぼでの景観作物栽培は今年度が最後となる予定である。昨年度に新たに託された船戸田圃は当面は草刈り管理をおこない、緑肥などの栽培が可能かどうか様子を見る。
- ・栽培をしたひまわりから種子を取り、搾油をしてひまわり油を得る。
- ・公開イベントは船戸圃場で7月に「ひまわり迷路とクイズに挑戦」3月に「菜の花畑散策と頭の体操」

を行う。

- ・船戸圃場、三角田圃、宮前沼圃場の景観作物栽培は我孫子市の「手賀沼沿い農地活用補助金制度」の申請を行い実施する。
- ・宮前田圃では収量の増加を図り、遊休農地活用活動に参加した人々に出来るだけ多くの現物支給を行う。

新規就農者支援グループ

- ・新規就農希望者が現れた場合は、市・県と協力して農業者として自立できるよう援助する。

◆事務局部門

事務局グループ

- ・各事業部門が存分に活動できるようバックアップする。
- ・地域住民・地域諸団体との連携を強め、手賀沼トラストの活動をいっそう理解してもらい、遊農チームへの参加・イベントへの参加などを呼びかける。
- ・トラスト正会員、協力会員、メルマガ会員の募集を積極的におこなう。
- ・託された農地で、米をつくり、景観作物を栽培し、地域の方がたの信頼を勝ち取る。
- ・遊農チーム（GMT65）と現物支給制を拡充・維持し、会員みずからが作ったものを消費することがそのまま里山保全につながる体制の確立を目指す。
- ・トラクターの公道走行時の保険など、必要な保険への加入を検討し、安全管理、リスク管理に努める。
- ・農業機械の実習・講習をとおして、機械を安全に使い、効率的に作業ができるよう努める。
- ・NHK カルチャー講座は受講者が集まらなかったため、今年度は開講しない。
- ・子ども部会は今年度1年を試行期間とし、理想的な参加形態を探る。

交流グループ

- ・会員相互並びに一般市民との交流の場として、早苗饗（さなぶり）、案山子祭り、そば祭り、餅つき大会などを実施する。
- ・会員同士、あるいは他団体、行政、事業者と自然環境や農について学び、情報の共有化を図る。
- ・他団体との連携については、トラスト活動に支障のない範囲で、積極的に行う。
- ・トラストサロンを開催する。